

2015 年度夏季海外研修（中国語・中国文化コース）研修レポート

総合政策学部 Tさん

私達は9月12日から26日の2週間、夏季中国研修で北京の伝媒大学に滞在した。今年も規定の参加者数に達しなかったため、伝媒大学に中国語を学びに来ている留学生と一緒に授業を受けることになった。私は県大で中国語の講義を取っていたが、たいして中国語でコミュニケーションをとれるわけでもなかった。ましてや、中国語を修得して就職に活かそうという考えもなく、ただ夏休みの思い出作りとして参加してみようという軽い気持ちで参加した。そんな軽い気持ちのまま、少し語学の勉強をしていかなくはと思いつつ、結局ほとんど何もせず出国の日を迎えた。私は、この何もしなかった日々をたった2週間の間で幾度も後悔することになった。

沢山の方に助けられながら、私達はこの2週間を過ごした。中国という国に持っていた良くないイメージも変わり、日本のメディアで報道される「中国の反日感情のニュース」は、実は、反中感情を煽るためなのではないかと考えさせられたほど、日本を好きでいてくれる中国人の方にたくさん会うことが出来た。本当に、言葉にできないほどたくさんの優しさに触れ、改めてたくさんの人に支えられていることを感じた。ただ、助けられている分、その優しさにただ甘えている自分いることがとても悔しかった。それは、言葉の壁を乗り越えてくれたのは、自分ではなく相手方だったからだ。自分で乗り越える準備をもっと真剣にしていれば、より私は私で中国を感じることができたかもしれないと思うと無駄に過ごした期間を本当に後悔した。だが、この後悔は次に繋がるものにしたいたいと思えた出来事があった。

その一つは、授業の時だ。クラスメートは、アメリカ人、カナダ人、韓国人、朝鮮人など様々な国から来ており、また世代も幅広かった。私は、レベル的に下から2番目だったこと、自分が日本人のため漢字に抵抗がないことといった理由から、周りの留学生から遅れは取らないだろうと過信していた。だが、レベルの差は歴然としていた。なぜなら、私は漢字に甘えていたのに対し、周りの留学生は音として理解しているため、先生の言う事が理解できていたのだ。私は、テキストの文自体はなんとなく理解できるのだが、先生の説明や指示が全く分からなかった。また、中国語が理解できなくても英語で互いにコミュニケーションができるため、中国語も英語もできない自分は置いていかれるばかりだった。日本に居ても、何を言っているのか理解できない授業もあるが、理解できないことを共有できる友はいた。だが、ここでは理解できないのは自分だけというなんとも言えない劣等感に苛まれ、ましてや、漢字を使っている国民であるという圧倒的に有利な状況の中で感じたこの想いはなかなか感じることはないものであった。なにより、自分のせいで相手に迷惑がかかることについて申し訳なくて情けなかったことを覚えている。しかし、ついていけなかったのは明らかに自分の勉強不足であったこと、なめてかかっていたことが一番

の原因だとわかったので、これから巻き返していきたいと強く思った。

もう一つは、仲間と一緒にではなく、軽い気持ちではなく、自分の将来を見据えてこの場所に来ている日本人の方にあつたことだ。ここに来るためにたくさん勉強してきた方、目的を持ってこの地に来た方と一緒に話す自分が恥ずかしくて仕方がなかった。自分がただ過ごしてきた時間をこういう人達は努力してきたことを知り、自分がいかに甘えている状況にいたのか痛感させられた。

この研修を通して、中国の生活を垣間見ることができた。交通事情や食文化、接客の違い、売り物の吹かけ方など文化の違いを肌で感じることができ、メディアを通してではなくその違いを自分で判断し処理できることが嬉しかった。ただ、私達が行った時は、ちょうど抗日戦争70周年だったため、「抗日」の言葉を見聞きすることもあった。日本人としてどうするべきかの答えは持っていなくてもその材料としての知識を持っていたら、「抗日」の言葉を実際に見て、考えることの深みも変わっていたのだろうか。文化に接するということは、良い部分と悪い部分の両方に触れるということだと改めて思った。出国前に、ある方に「あつちはイエスカノーかの世界だから、自分の考えを持っていくんだよ」と言われた。それはとても難しいことだと思った。イエスカノーを決められる思いは多くはないと思ったからだ。だが、もう直そういう世界に行かなくてはならないのならば、自分が下した判断に自信を持てるように、この研修で経験した自分の努力不足からの悔しさを糧に進んでいきたい。

この研修レポートは、本来ならば次にこの研修に参加する後輩に役立つ情報を書くのが基本だと思うのだが、研修の時期や内容が一緒ではないということ、また前に研修に参加した人達に話を聞いた時に、文化の違いについて感じ方の違いがあつたこと、研修についての感じ方、過ごし方に違いがあつたこともあり、あえて研修の内容は書かなかつた。私達が2週間という短い期間に経験したことは、この4人だったからということが大きいと思うからだ。規定の人数の達しなかつたからこその、この経験だつたと思う。本当にたくさんの方に支えられて、過ごした時間だつた。そして、今まで何もかもやってもらつたことに気づいたきっかけにもなつた。いくら大学の企画だつたとしても、実際に過ごすのは自分たちであるのだから、最低限下調べしていくこと、そして後悔しないためにも、中国語か英語、そしてコミュニケーション力を養って臨むことが大切だと感じた。

最後に、この2週間のという短い期間で楽しい思いと同じくらい悔しい思いをしても、それでもこの研修に参加して心から良かったと思えるのは、学生センターの須藤さん、大下さんを始め、劉先生、張さん、日本人留学生の皆さん、クラスメートの方々、新田先生、現地でお世話になつた方、昨年の研修に参加した先輩、行ってこいと一言だけをくれた両親、そして何より2週間を共に過ごしてくれたメンバーのおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

9月12日から26日までの14泊15日間、北京市にある伝媒大学での海外研修に参加してきた。私は初海外で飛行機に乗るのも初めてだった上、中国語もほとんどといっていいほど知らない状態で参加したため、9月12日が近づくにつれて不安な思いは増す一方だった。初めての海外での15日間の滞在はとても長く感じ、さらに不安を助長させた。日本で流れる中国のニュースは、中国国内での反日行動や食品偽装の問題、エスカレーターの事故、さらには爆発など、悪いニュースばかりである。そのため、私自身も中国によいイメージを持てなかった。

12日は朝早くに盛岡駅を出発し、北京には夕方に着いた。日本から近い国とはいえ、外国はやはり遠い。空港内はとても広く、私一人だったら身動きできないだろう。私は飛行機をととても恐れていたが、機内で寝てしまったため、飛行中は怖いと感じなかった。しかし、機内の表記が全て中国語であること、日本語が一切通じない環境というのは辛かった。席の都合で窓からの景色が見られなかったことにもがっかりした。

研修が始まってすぐ、強く感じたことは中国語が聞き取れないと何もできないということだ。現地の日本人留学生以外には日本語が通じない状況であり、当然日本語表記はどこにもない。聞こえてくる中国語は全く聞き取れなかった。留学生担当の先生からも中国語で説明を受けたため、全くわからなかった。日本人は漢字ができるから表記は理解できると言われたが、日本にはない漢字が沢山使われ、意味も日本語とは違うため、その考えはほとんどあてにならない。書いてある中国表記も理解できなかったため、私は下に表記されている英語でなんとか意味を理解していた。

研修期間中は大学内にあるスーパー（超市）で買い物をしていた。私は中国の製品が不安だったため、世界的に有名なブランドや、日本ブランドの水や食べ物を購入していた。中国のブランドの食品を買っている人たちもいたため、品質は大丈夫だったのだろう。聞いた話によると、このスーパーに売っているものの品質は大丈夫だそうだ。中国は物価が安いとよく聞くが、私はあまり実感しなかった。また、無印良品やユニクロなどの日本ブランドは高く売られており私たちには買えない値段のものもあり驚いた。

お昼や夜は、外食する機会も多かった。私は口に合うかよりも食べ物の品質を心配していた。しかし、二週間の内でお腹を壊したこともなかったし、個人的には美味しかった。中には香辛料で独特の味がする食べ物もあったため、慣れるまで大変かもしれない。大学内の食堂や近くに売ってある、炒飯や水餃子、ゴマ団子が美味しかった記憶がある。間違えて水餃子の中にあんこが包まれているものを注文したことがあったが、とても美味しかった。また、日本メーカーでないお菓子や、土産として買ったものは正直言って不味かったため、お土産にも日本や世界的に有名なメーカーのお菓子を買うことをお勧めする。

私がつもつ不安だった授業だが、問答無用で1番初級クラスの1班にされた。授業は英語で話す先生がほとんどだったが、中には中国語で話す先生もいたため、何を言っているかシチュエーションで理解した。英語で話が進むこともあって、思ったよりも授業を理

解することができた。1班は欧米人がほとんどであったが、彼らは積極的に発言をしたり、すぐに質問したりしており、日本の大学との違いを感じた。他の学生との会話はもちろん英語である。個人的には授業よりも他国の学生の英語を聞き取ることに気力を使った。と、いつつ、日本人が外国人に話しかけられることはほとんどなかった。向こうの英語は聞き取れないのに、自分の英語が相手に伝わったことに驚いた。

この研修はひたすら授業を受ける、というのを想像していたが、思ったよりも観光できたのが意外だった。それも知り合いの方々に北京で会うことが出来、彼らが案内してくれたおかげであった。当初の計画では万里の長城が含まれていたが、私たちが帰国する26日に行くということで行けなかった。かなり悔しかったが、主要な観光地を巡れたのでよかった。天安門、王府井の土産屋、偽物ブランドが陳列された秀水街、故宮を上から見渡せる景山公園、動物園などを巡った。個人的に歴史的建造物の色使い、彫刻の細かさに感銘を受けた。歴史的建造物を見られただけでも、中国を訪れた価値があると私は感じた。観光地では欧米から来ているのであろう人もよく見た。また、伝媒大学で、英語表記の中国全土の観光パンフレットが渡された。写真がとても綺麗で、遠くて行けないのが残念だった。一生に1回は訪れたいと感じた。

2週間ということで、語学学習には不十分な期間だったが、観光面を初めとして現地に行かないとできない経験ができたと思う。今回初海外であったため、日本語が全くといっていいほど周りにない状況も、日本にある店や商品がない状況も初めてだった。日本を出発する前は不安ばかりで、行きたくないと思うこともあった。しかし実際に外国に行って多くの経験ができ、不安な中でも海外研修に参加してよかったと感じた。私は以前から海外に行きたいと思っていたが、いざ実際に行ったら、外国に二度と行きたくないと思うのではないか、という恐れもあった。しかし、日本に帰ってきてからももう一度外国に行きたいと思っている。これも、この2週間を楽しめたからであろう。

2週間で大きな事故もなく過ごせたのは周りの方々のおかげである。日本人留学生の方々には本当にお世話になった。土産の買い物に付き添ってくれたり、私たちの代わりに中国語で現地の先生に質問してくれたり、タクシーを調達してくれたり、彼らがいなかったら外に出る機会も限られ、楽しめなかったであろう。タクシーを頼めなかったら空港にも辿り着けず、最悪、日本に帰国できなかったかもしれない。時折、日本人留学生の方々と留学の動機について、就職など将来の話をした。貴重な話を聞いてとても勉強になった。彼らの意識の高さにただ凄いとしか言えなかった。これも実際に外国に赴かなければ聞けなかった話で貴重な体験だったのではないか。この2週間で関わった人たちには感謝してもし切れない。2週間の間に関わってお世話してくれた皆様、本当にありがとうございました！！

社会福祉学部 Kさん

私は、9月12日から26日までの2週間、2015年度岩手県立大学夏季海外研修「中国語・中国文化コース」に参加しました。留学先は、北京市にある伝媒大学です。伝媒大学は、新聞やテレビ、アナウンサー等の科目が設置されており、中国の放送教育分野では最高レベルの大学です。

中国は今年、抗日戦争勝利70年ということで、それを祝う大規模な軍事パレードが行われました。このパレードは私たちが留学する直前に北京市内の天安門広場で行われたため、日本人として不安があったのですが、何事もなく無事に帰国することができました。

☆生活について

伝媒大学の留学生寮で2週間過ごしました。2人部屋でベッドやテレビ、机、洋服棚がありました。トイレやシャワーは共同でした。トイレは使ったトイレトーパーは水に流さずに、個室の中にあるゴミ入れに入れます。それから、湯船はなく、シャワーのみです。寮の近くにスーパーがあり、朝ごはんや生活に必要なものはここで買っていました。おにぎりが無いので、朝は専らパンでした。水は水道水は飲まず、ここで買ったものを飲んでいました。スーパーの2階には食べ物屋があり、何度か足を運びました。ジャージャー麺やチャーハンを食べましたが、美味しかったです。チャーハンは、日本のものよりも油っぽかったです。



伝媒大学の正門↑



留学生寮↑

☆授業について

初級の1班から上級の6班まであり、テストによってクラス分けされるという予定でし

たが、私たちは他の留学生とは違う日程で入ったためか、中国語を勉強した時間で分けられました。1限は午前8時から始まり、1コマ100分で、50分ごとに10分休憩を入れる形式でした。リスニング、ライティング、スピーキングの授業がありました。ライティングでは、漢字の書き練習があったのですが、日本人には楽でした。どの授業でも外国人が積極的で、見習いたいと思いました。

☆観光について

休みの日や放課後には、観光をしました。たくさんの方のおかげで、有名な場所に思いのほかたくさん行くことができました。移動はほとんど地下鉄でした。地下鉄は混んでいるときが多く、スリに遭わないよう、荷物を前に抱えるなどして対策しました。また、混んでいる列車に乗車する時は、押されることがありました。歩いたり地下鉄に乗るなど、実際の空気を感じることができて良かったです。



地下鉄传媒大学駅↑



天安門広場↑



北京ダッグ↑



王府井小吃街↑



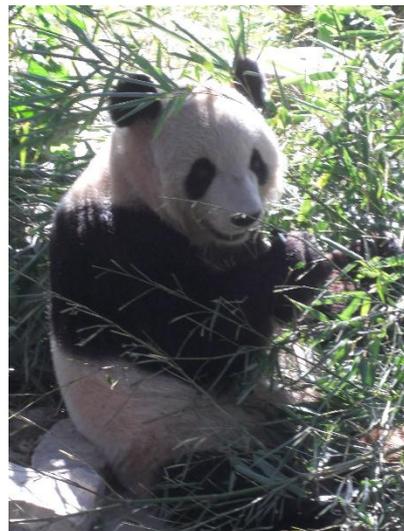
南羅鼓巷↑



偽ミッキー↑



景山公園から見渡した故宮↑



北京動物園 パンダ↑

☆まとめ

私は、入学する前に、岩手県立大学には夏季休暇に中国か韓国へ短期留学できるプログラムがあることを知っていました。その時から、どちらを選択しようか迷っていたのですが、中国を選択しました。行く前は、治安や食べ物のことが心配でした。行く何日か前には、抗日戦争中国勝利70年の軍事パレードが行われたので、反日感情が高まっているのではないかと不安が増していました。しかし、実際に行ってみて、お店で私が拙い中国語を話しても聞き取ろうとしてくれたり、ATMでのお金の降ろし方が分からず困っている時、教えてくれたりするなど、良い場面にたくさん出会いました。やはり、実際に行ってみないと分からないことがあると思いました。最初は、2週間長いなあと思っていたのですが、終わってみると短く感じられました。そして、もっといって、もっと知ることができるのではないかと思います。また中国へ行きたいです。

盛岡短期学部 Tさん

私たちは中国伝媒大学に15日間滞在してきました。中国へ行くのは初めてではありませんが、学生のみで行くことはなかったので不安でした。また、1年生は私一人だったので少し心細かったです。普段の私なら、見知らぬ人と海外に行くなんて絶対にありえませんが、中国研修だけは絶対に行きたいと思っていました。

実は私は母が中国人です。つまりハーフなのです。なら中国研修に行かなくても中国語ペラペラじゃん、などと思う人もいると思いますが実際そんなことはありません。何せ日本生まれ日本育ちですから、家で母と話すときも日本語です。しかし、母は私と兄には中国語を使うのでリスニングには自信がありました。実際、先輩方よりも有利だったと思いますし、頼られて大分天狗になっていたのでは、と帰国してから少し反省しました。

さて、中国研修の内容ですが、中国文化などを学べるコースは人数が5人以上いなければならなかったのですが、一般の授業のみでした。レベルによって一班、二班、三A班、三B班、四A班、四B班、五班、六班と分けられました。私は三B班になりました。班分けのテストがあるはずだったのですが、時期が悪かったのか、テストがすでに終わっていたため簡単な書類審査で分けられました。教科書代が一班や二班よりも安かったのでラッキー☆と思いました。授業は朝8時からで1日に三回しかありませんでした。その代わり1つの授業時間が100分で50分ごとに10分の休憩が入ります。前半だけで抜ける人や、途中から堂々として入ってくる人もいて驚きました。しかし、皆積極的に発言していて圧倒されました。日本人は漢字を知っているので単語や文の意味をある程度理解できますが、発言することにおいては他国の人より圧倒的に劣っていると実感しました。勿論すべての日本人が、というわけではありませんが……。三B班の授業はすべて中国語で行われます。二班もほぼ中国語での授業なので、自信のない人は潔く初心者向けの一班にしましょう。途中で変更することもできるので、迷っている場合は教科書に書き込まないようにした方がいいです。でないと教科書代返金されませんので。

次に、皆さん気になっているであろう中国での生活について語ろうと思います。寮は思いのほかきれいでした。だからといってあまり期待しすぎないように！トイレは和式…のようなものでした。個室にトイレトペーパーなどは無いので入る前にきちんと確認しましょう。出かける際にもティッシュは必須です。最近では公共のトイレにもトイレトペーパーが備え付けてありますが、やはり個室には無いので1つは持っていた方がいいでしょう。入浴はシャワーのみです。慣れればどうということはありません。ちなみに寮費は50元×14泊=700元に加え、敷金1000元です。日本人留学生が何人かいるので生活に困ることはまずないです！安心してください。また、食事はすべて外食です。日本人の口には合わないものが多いので、日本人留学生に案内してもらおうか、寮近くの超市（スーパー）で買うのが安全です。値段はどれも日本に比べてとても安いです。ちなみに炒飯がお勧めです！



←学生食堂の料理です。

伝媒大学は地下鉄で行ける距離に多くの観光地があります。私たちはまず初日に王府井に行きました。王府井は物価が高く、ほとんどぼったくりです。強引に勧められたりするのでいいカモにならないようしっかり断りましょう！中国語がわかる人がいれば心強いですね。他の場所でも同様です。



↑王府井で売っていた
サソリ&ヒトデ&タツノオトシゴ
地元民はまず買いません。
観光客用です。



↑天安門です。
この日は日差しが強くて死にそうでした。

今回の中国研修は当初の予定より内容が変化してしまいましたが、とても充実した2週間を過ごせました。それはこの海外研修をサポートしてくれた方々がいてこそだと思います。ただの旅行ではここまでの助力はなかったでしょう。本当に参加してよかったと思います。

楽しい思い出をありがとう！